

会員の皆様には、学生募集・オープンカレッジなどでお忙しい季節かと思えます。

Vol.1 をご覧になった会員の方から

『専門学校は4月から全専日協として新たな活動を始めていることが分かり協力します』
『どんな小さなことでもいいので、こまめに発信して下さい』

といった反響を頂きました。お読み下さって有難うございます。

こうした声にお応えし、今回は「日本語議連の動き」と、6月から7月にかけて開く総会に向けての「準備委員会」についてお伝えします。

- ① 前回のニュースレターで3月14日に「日本語教育推進議員連盟」（日本語議連）からのヒアリングを受けたことをお伝えしましたが、「もう少し詳しくこれまでの経緯を知りたい」という会員の方からの声がありました。

「日本語議連」は去年11月8日に設立された超党派の国会議員の集まりです。我々の事務局に世話人の石原進氏（日本移民情報機構）が文化庁の紹介で訪ねて来られたのは9月16日のことでした。「これまでの勉強会で各種学校の意見は聞いてきたが、専門学校の意見も聞きたい」との事でした。

お話を聞くと「日本語議連」の概略は次の通りでした。

『日本はグローバル化が進み日本語教育の重要さが言われる一方で課題も山積しているが所管する官庁もなく、また文化庁に「国語課」はあっても「日本語課」がないように、日本語教育の基盤が出来ていない。日本語は日本文化の原点であるとともに世界に広めることで経済活力も引き出す。今後、多彩な議論を通じて「日本語教育推進基本法」（仮）の制定を目指したい』というものでした。

この「日本語議連」の動きは今後更に進むことが考えられたため、専門学校部会の提案で11月14日に講演会を開き、石原進氏に、議連の趣旨を語ってもらいました。

（添付資料1）

その後、文化庁からは、議連の体制や関係団体に対するヒアリングの情報が送られてきました。

（添付資料2）

こうした流れの中、3月14日の第5回総会で専門学校からの意見も発表したわけです。内容は前回の添付資料をご覧ください。

「日本語議連」ではこの後も第6回総会で、在留外国人の支援を行っている団体からのヒアリングを行いました。「日本語教育推進基本法 立法チーム」も動き出しています。

さて、専門学校は、学校教育法第124条によって認可され高く評価もされています。その私たちから見て、良い方向に向けて協力できることは何なのか、また今後、教育の質の面から心配される事が出てくるなら積極的に発言していかなければなりません。

いずれにしても「日本語教育推進議員連盟」（日本語議連）の動きには注目していきましょう。このニュースレターでも配信していきますが、以下の「日本語教育推進プラットフォーム」で随時掲載されています。参考までお伝えしておきます。

<https://www.facebook.com/nihongoplatform/>

② 「全国専門学校日本語教育協会」（全専日協）の総会は6月下旬から7月上旬を予定しています。

今この総会に向けての「準備委員会」を設け、参加への呼びかけを行っています。より一層良い団体にしていくために、「事業計画」、「委員会を含めた組織体制」「会則」「予算」など、総会に提案する重要な案件について話し合ってもらいたいと思います。理事の方々に加えて、これまで専門学校部会に出席して下さった会員の皆様にお声をかけているところで、本日（17日）現在、13校が参加に同意して下さっています。日程は次の通りです。

● 第一回準備委員会

6月1日 16時～18時

文化学園 4F 国際会議室

団体は、会員による会員のための組織です。オープンに語り合ってくださいのために、更に有志の方々の参加を期待しています。

ニュースレターに対するご意見・ご希望もお待ちしています。

[追伸]

Vol.1でお伝えした海外人材育成協会（HIDA）の日本語教育センターから「看護・介護にかかわる外国人のための日本語スピーチコンテスト」の情報が届きました。有意義な大会だと思います。是非参加を検討してみてください。（添付資料3）

2017年5月17日

全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当